

「三股プライド」 ～心と形を整える～

令和5年6月23日(金) NO9 文責 木下^{きした} 文秋^{ふみあき}

6月27日～追悼集会に思う

今から56年前の昭和44年6月30日にその事故は起きました。朝から激しい雨が降り続いて授業をしても外の様子が気になるほどの大雨が降っていたそうです。10時過ぎに校内放送で職員が呼ばれ、午前中で授業を打ち切り午後には下校させるという町の判断が出されました。ここで中2の女子生徒、川越幸子さん(田上)上牧みち子さん(田上)徳田とも子さん(餅原)今村敬子さん(餅原)の4名の名前が出てきます。彼女らは仲良しでいつもは自転車で登校してくるところを、この日は大雨のために徒歩で登校してきました。午後から下校となり車で下校しようと三股駅に向かいましたが、不通となっており仕方なく歩いて帰る決断をしたと記録があります。勝岡を通る道と、梶山を通る道があったそうですが、梶山を通る道は安全だけど遠回り、結局近い方の勝岡を通る決断をしたようです。しかし、ここには新坂という坂があり、シラス形状の坂で大雨の時は時々通行止めになっていたとのこと。彼女らはそこを通過して下校途中に生き埋めとなって尊い命を落とすこととなります。追悼集会は、私がここに勤務していた昔も、私が中学生時代も、粛々と行われてきた学校行事です。今の時代に大雨の下校途中に4名の中学生が生き埋めとなる事故が起これば、全国からテレビ局が駆けつける大騒動になることでしょう。今では新坂の整備が進んでいますが、スピードが出る上に、カーブになっておりとても危険な場所です。当時の新聞が学校に掲載されていますが、とても悲惨な事故であったことが伝わります。実は、亡くなられた今村敬子さんと私の母はいとこになります。今村さんの母親と私の祖母は姉妹で、私の祖母が姉だそうです。事故が起きた時私は5歳だったので、今村敬子さんの顔を覚えていませんが、追悼集会のたびに複雑な思いがします。6月16日(金)の放課後に生徒会と部活動生が新坂に駆けつけ、慰霊碑の掃除をしてくれました。最後に全員で手を合わせる姿を見て改めて事故の悲惨さを痛感しました。追悼集会の前夜、実家で母にその話をしたら、いとこの母でしか知りえない話を教えてくれました。土砂から救出された今村敬子さんの制服の胸ポケットには小銭が入っていたそうです。その小銭はバス賃です。帰りは気を付けてバスで帰りなさいという親心だったのだと思います。胸が締め付けられる思いがしました。ご冥福をお祈りします。